出る杭研究

ベニコンゴウインコおよびルリコンゴウインコにおける羽引き行動改善を目的とした栄養素給与の有効性の検証

松野日咲・小川珠緒・佐佐木杏・池田裕美・加瀬ちひろ・山本誉士(麻布大学獣医学部)

研究の背景と目的

本研究では、動物園飼育下のベニコンゴウインコおよびルリコンゴウインコを対象に、遊離アミノ酸(L -セリン)を給与し、ストレスによる羽引き行動に与える影響を評価することを目的とした。

研究・調査方法

対象個体：ルリコンゴウインコ1羽（レイニー、図１）、ベニコンゴウインコ1羽（サニー、図2）
調査場所：東武動物公園
給与方法：羽引きが見られた個体（サニー）に粉状のL-セリンを200 mg/kg給与した。
観察方法：動物園で録画した24時間の動画を用いて実施した。各時間帯の00分から05分までの5分間を観察した。身繕い行動の頻度や持続時間を記録し、羽引きの有無による個体間比較と遊離アミノ酸(L-セリン)給与による前後比較を行った。
観察期間： 2025年6月～8月　（給与前2日間、給与中3日間、給与終了後3日間　計8日間）

結果と考察

両個体とも、6/17の身繕い行動の発現割合が低かった(図3,4）。
給与個体（サニー）では給与終了後に身繕い行動の発現が増加した。
給与中のみ、身繕いで触れた部位、使用した部位共に、偏りが見られたが、給与後は偏りが減少した(図6,8）。


図1:レイニー

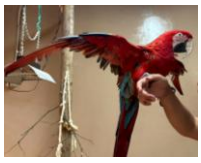
図2:サニー

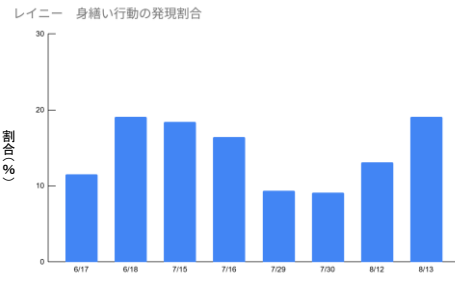

図3

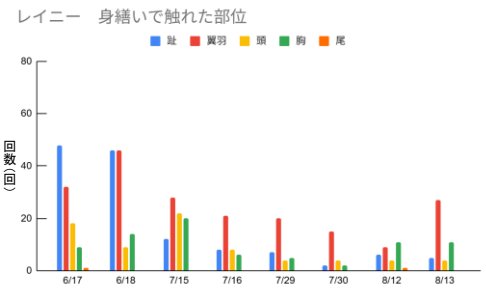

図5

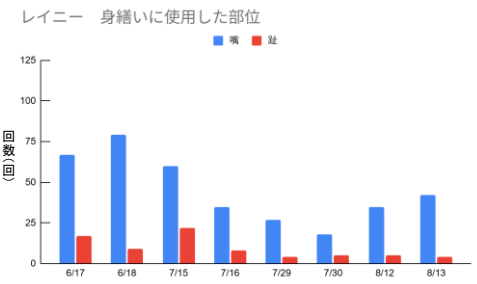

図7

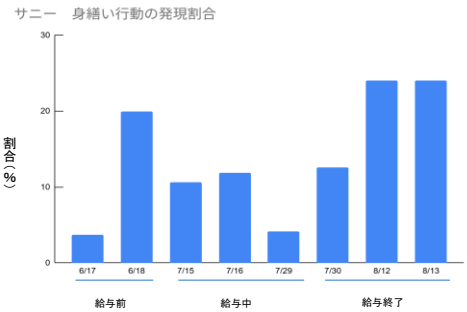

図4

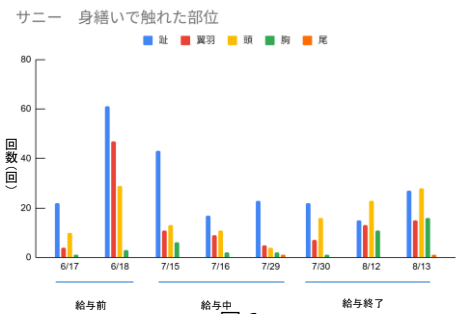

図6

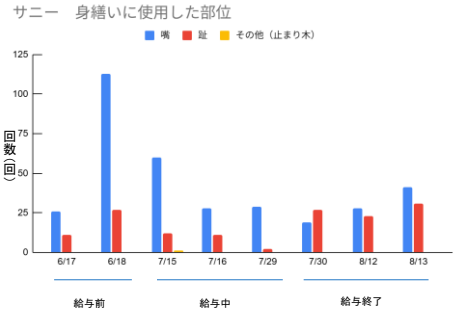

図8

レイニーよりサニーの方が環境の変化に影響されやすい可能性があると考えられた。L-セリンは身繕い行動を抑制し、給与によって身繕い行動に影響を与えると示唆された。

これから

本研究では過剰な身繕い行動が羽引き行動を助長すると考え、身繕い行動に着目して評価を行ったが、直接的な因果関係がみられなかったため、今後は羽引き行動に注目して研究してみたい。L-セリンの効果についてより多くのデータで長期的に検証していきたい。